

高校生のアイコさんは地理の授業で、「インドはなぜ経済成長しているのか」をグループで探究していくことにした。アイコさんたちのグループが調べたことに関する下の問1～6に答えよ。

問1 インドの経済成長の要因を探究するにあたり、授業の最初に世界の経済成長率に関する資料が、先生から示された。そこで地域別に差が生じていることに気づいた。さらに先生から世界の人口増加率、人口オーナス・人口ボーナスに関する資料も示された。これらの資料からアイコさんたちは、まずはじめに経済成長率の地域差と世界の人口増加率の地域差の関係について考察してみることにした。以下の図1は世界の年平均GDP成長率、図2は世界の人口増加率について示したもので、資料1は先生が示した人口オーナス・人口ボーナスに関する資料である。これらのことからアイコさんたちが話し合ったこととして、**適当でないものを①～④より一つ選**べ。

IMF DataMapper

Real GDP growth (Annual percent change, 2018)

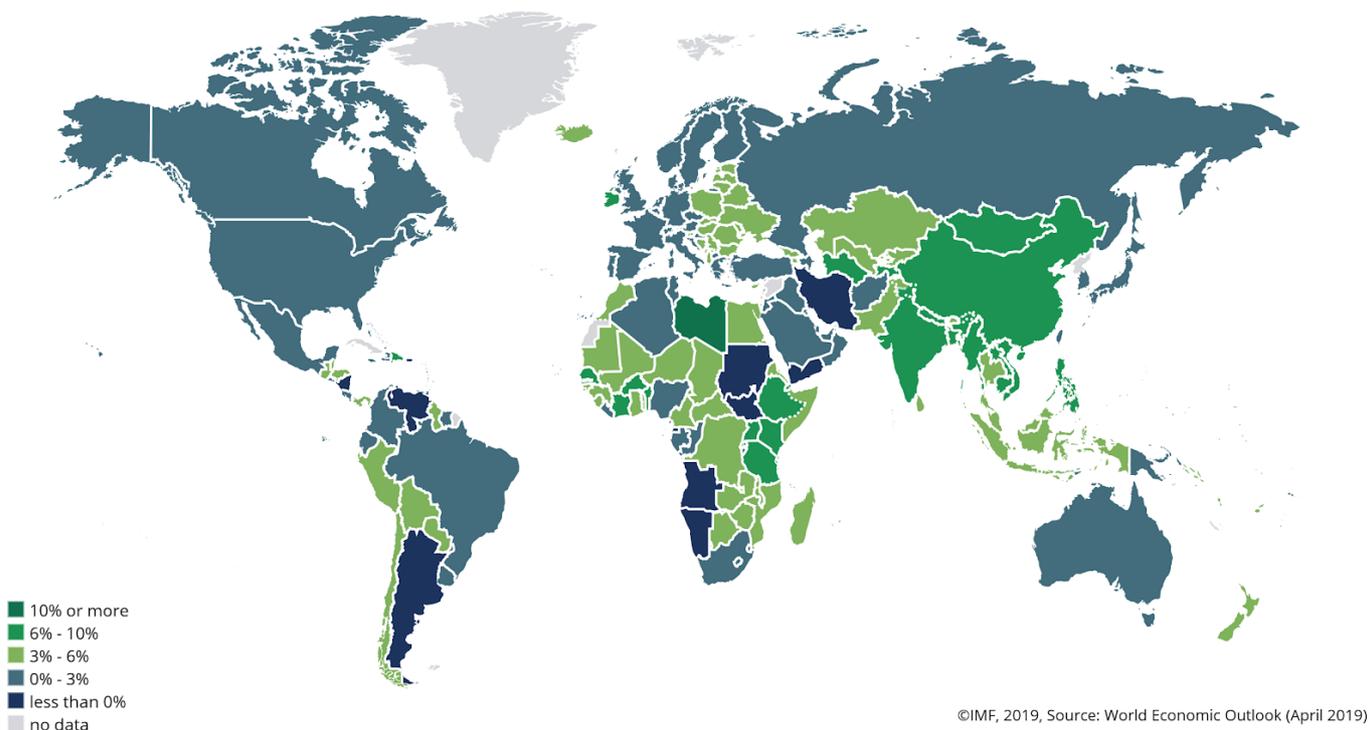


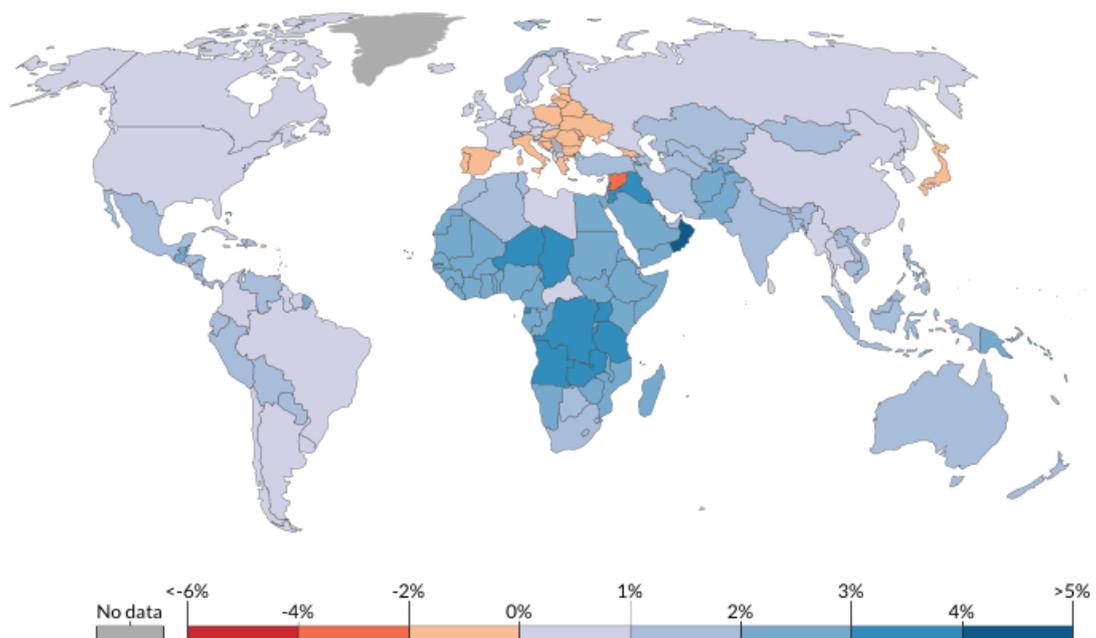
図1 年平均GDP成長率（2018）

https://www.imf.org/external/datamapper/NGDP_RPCH@WEO/WEOWORLD/JPN/IND

Population growth rate, 2015

Annual rate of population change from 1950, including UN projections to 2100 based on its median scenario. This takes births, deaths and migration into account.

Our World
in Data



Source: UN Population Division (2017 Revision)

CC BY

図2 人口増加率（2015）

<https://ourworldindata.org/grapher/population-growth-rates?country=IND>

資料 1

人口ボーナス期

ある社会が「多産多死」の社会から「少産少子」の社会に切り替わる際に人口構成比の子供が減り、生産年齢の人口が多くなった状態。高齢者が少なく、労働力が豊富なため、社会保障費が少なくて済み、経済発展をしやすいとされる。現在のインドネシアやタイがそれにあたる。日本の1960年ごろから始まり、90年ごろ終わった。そして、一度人口ボーナスが終わると、二度とこない。なぜなら、高度成長期が訪れると、医療や年金制度が充実してくるため高齢化社会になるからである。さらに、人口ボーナスが終わると国民一人当たりのGDPはほぼ横ばいになるからである。理由としては、分子（GDP）も分母（人口）も同様に減少するからである。

人口オーナス期

人口構成の変化が経済にとってマイナスに作用する状態。オーナス(onus)とは、「重荷、負担」という意味。働く人よりも支えられる人が多くなる状況である。日本では、少子高齢化が顕著になってきた90年頃から人口オーナス期に入ったとされる。人口オーナスによって生じる問題としては、労働力人口の減少・働く世代が引退世代を支える社会保障制度の維持が困難になることが指摘されている。

Copyright 2014 Work Life Balance Co., Ltd https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/sokai/pdf/014_04_00.pdf

<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2016/09/pdf/004-015.pdf>

会話文

アイコ「世界のGDP成長率を見ると、地域別に差があるのがわかるね。」

リント「中部アフリカやインドなど人口増加率が高いところは、概ね経済成長率も高いね①。」

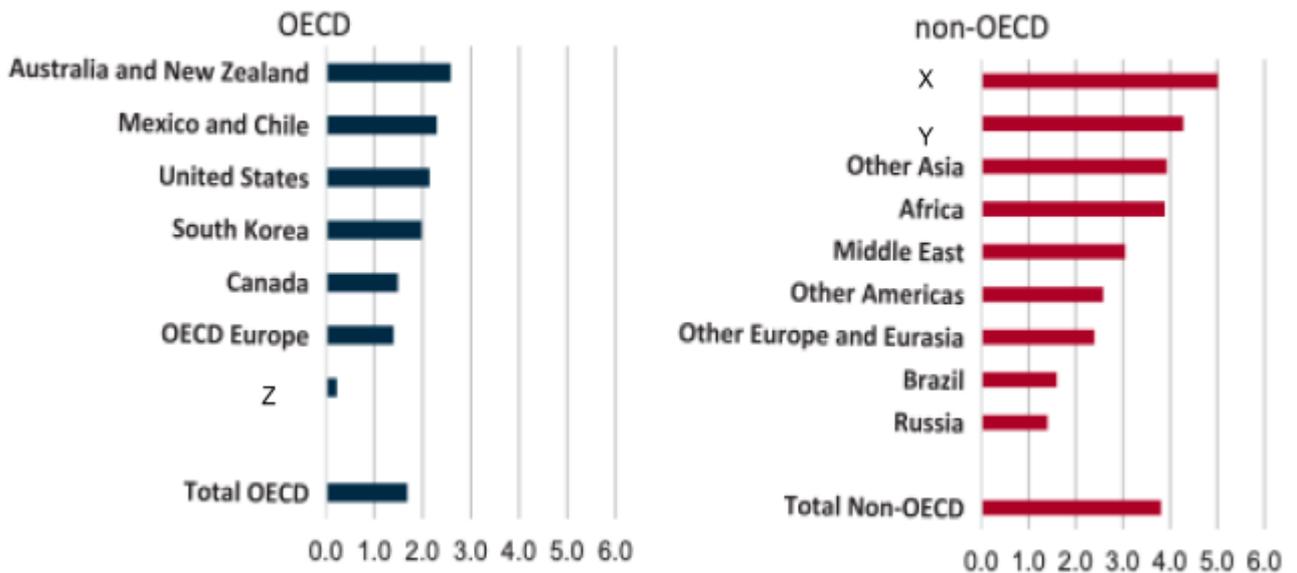
ユミ「だけど中部アフリカはインドより人口増加率が高いのに、経済成長率は中部アフリカよりインドの方が高い②ね。」

タロウ「それはインドが人口ボーナス期に入っている③からかもしれないね。」

アイコ「中国は人口増加率がアメリカと同じくらいであるのに、GDP成長率がインドと同様に高いのは、中国が人口ボーナス期に入っている④からだろうね。」

問2 つぎに先生は、図3の2015年から2040年の平均GDP成長率を、アイコさんたちに提示した。そして空欄になっているX～Zにはそれぞれ、日本・中国・インドのいずれかが当てはまると説明した。アイコさんはX～Zに当てはまる国を考察するために配布された資料（図5）をみながら、リントくんと仮説を立てた。次の図4はアイコさんとリントくんが考えた仮説を示しており、図4中の資料A・Bには、仮説を考えるもととなった資料として、図5中のア・イがそれぞれ当てはまる。BとXの組み合わせとして最も適当なものを、①～⑥のうちから1つ選べ。

Average annual percent change in GDP, 2015-40
percent per year



International Energy outlook 2017 [https://www.eia.gov/outlooks/ieo/pdf/0484\(2017\).pdf](https://www.eia.gov/outlooks/ieo/pdf/0484(2017).pdf)

図3 年平均GDP成長率（2015～2040）

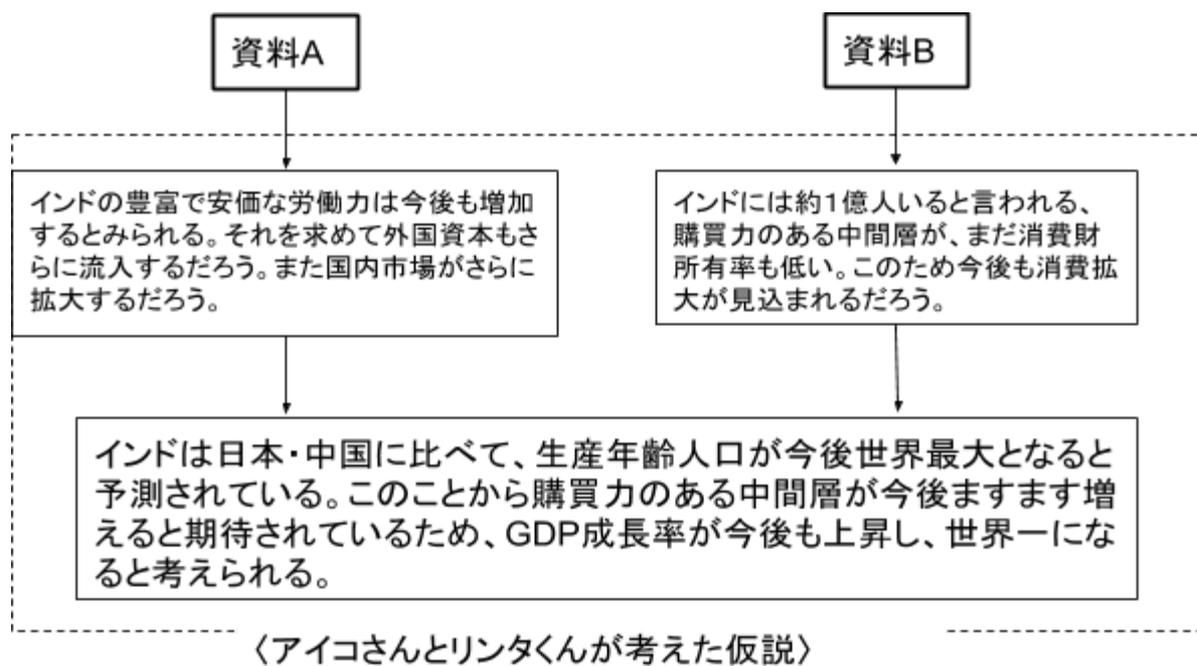


図4

世帯あたりの耐久消費財の所有比率

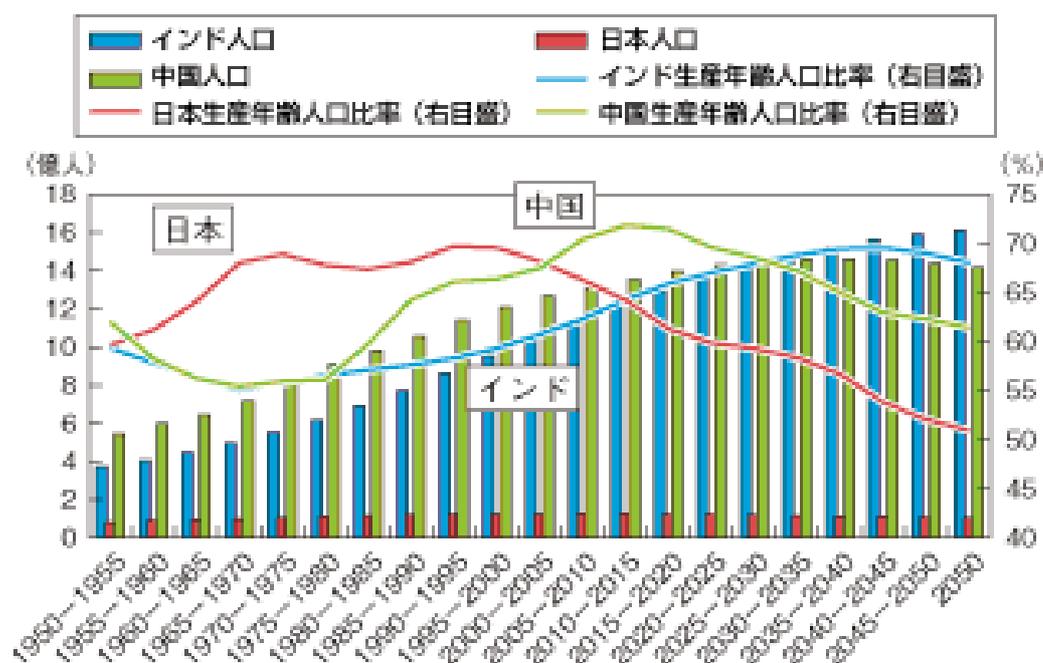
	世帯の年収 (1000ルピー)	比率 (%)	自動二輪 (台)	カラーテレビ (台)	冷蔵庫 (台)	エアコン (台)	自動車 (台)
Deprived	< 90	71.9	0.07	0.05	0.04	0.00	0.00
Aspirers	90-200	21.9	0.47	0.40	0.34	0.02	0.04
Seekers	200-500	4.80	0.70	0.74	0.62	0.13	0.29
Strivers	500-1000	0.91	0.75	0.69	0.64	0.28	0.54
Near Rich	1000-2000	0.29	0.66	0.89	0.68	0.32	0.66
Clear Rich	2000-5000	0.11	0.77	1.13	0.81	0.40	0.69
Sheer Rich	5000-10000	0.02	0.91	1.17	1.00	0.38	0.77
Super Rich	> 10000	0.01	0.92	1.19	1.08	1.15	2.96
合計		100.0	0.20	0.17	0.14	0.01	0.03

出典：インド応用経済研究所（NCAER）（2001年）。

※インド応用経済研究所は「中間層」の定義を1世帯年収20～100万ルピーとしている。
日本の物価はインドの7倍近くであるから、20万ルピーという所得は年収400万円くらいにあたると言える。

現代インドを知るための60章 明石書店2007

ア インドの一世帯あたりの耐久消費財の所有率



備考：中位推計の数字。生産年齢人口は15歳～64歳の人口。
資料：国連「World Population Prospects: The 2008 Revision」から作成。

<https://www.meti.go.jp/report/tshaku2009/2009honbun/html/i1240000.html>

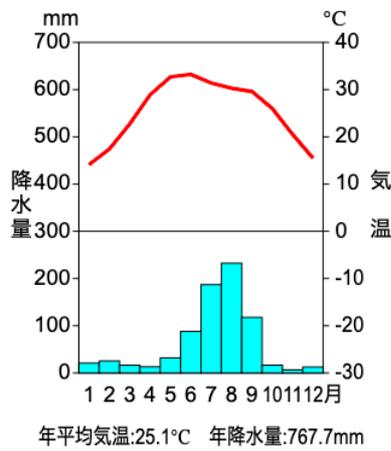
イ 日本・中国・インドの総人口及び生産年齢人口予測

図5

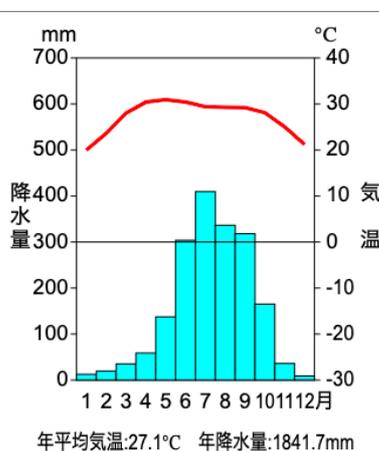
- ① B-ア X-中国 ② B-ア X-インド ③B-イ X-中国 ④B-イ X-インド

インドの気候と農業の形態をまとめたポスター

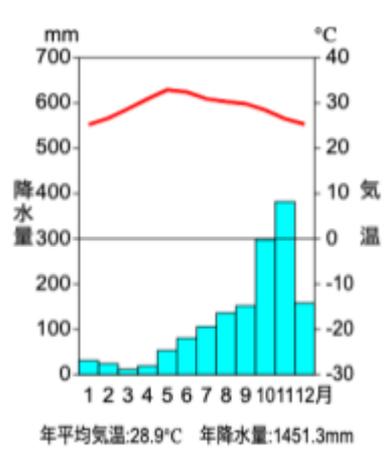
“インドの気候と農業の形態”



C



D



E

雨温図は気象庁データにより作成

<http://ktgis.net/service/uonzu/index.html>

http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/climatview/graph_mkhtml.php?&n=42182&p=12&s=1&r=1&y=2017&m=12&e=0&k=0&d=0

	農業の形態
あ州	外来河川を水源とする用水路灌漑と井戸を利用した地下水路灌漑によって、農業生産が維持されている。小麦が多く栽培されている。
い州	北東モンスーンの影響で、地形性降雨がもたらされ、湿潤な気候となるため、栽培に大量の水を必要とする米が栽培されている。
う州	南東モンスーンの影響で、地形性降雨がもたらされ、湿潤な気候となるため、栽培に大量の水を必要とする米が栽培されている。

図6

問3 アイコさんたちは、インドの人口増加に関して、気候と農業の関係を明らかにすることにした。特色ある気候と地域別の農業形態について調べ、図6のようなポスターを作成した。西ベンガル・タミルナドゥ・ハリアナ、それぞれの州に該当する雨温図と農業形態の組み合わせとして、適当なものを①～⑥より1つ選べ。

	①	②	③	④	⑤	⑥
州名	西ベンガル	西ベンガル	タミルナドゥ	タミルナドゥ	ハリアナ	ハリアナ
雨温図	E	C	E	D	C	D
農業形態	あ	う	い	う	い	あ

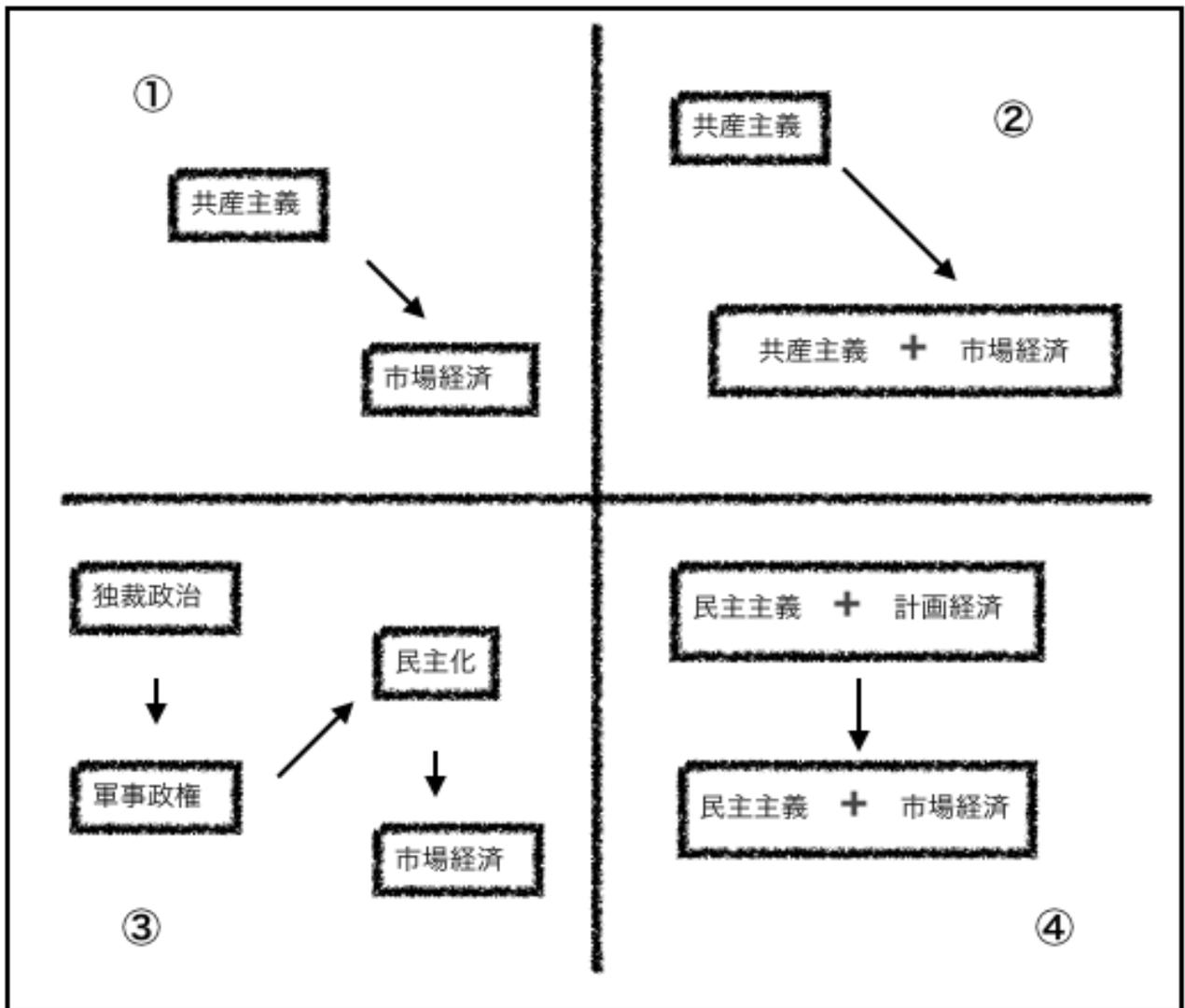
問4 次にインドの経済成長の理由を考察するために、BRICsと呼ばれる国々の経済政策の移り変わりについて調べた。以下の表1は、アイコさんたちのグループが、インド・中国・ブラジル・ロシアの経済政策について調べたものである。この表1をみてアイコさんたちのグループは、経済の移り変わりの違いをホワイトボードに図示してみた。インドに該当するものをホワイトボードの①～④より選べ。

表1

年代	ブラジル	ロシア	インド	中国
1889	革命が起こり、共和国となる。			
1922		世界初の社会主義国であるソビエト社会主義共和国連邦が発足		
1930～ 1945	バルガス独裁体制	第2次世界大戦後、アメリカと並ぶ超大国となる。		
1947			イギリスより独立。国家主導の計画経済を行う、混合経済体制のもとで経済発展を図る。	
1949				共産党の指導のもと中華人民共和国成立
1964	軍部がクーデターを起こし、政権を奪取。軍部の独裁制が続く。			
1970	段階的民主化開始			
1978				経済の改革開放政策始まる。生産責任制などの農業自由化政策を実施 外国企業の進出を受け入れる経済特区の設置
1982				人民公社の解体決定
1985	大統領選挙が実施され、民政復帰	ゴルバチョフ政権誕生。ペレストロイカを推進し、経済体制の改革を推進		
1991		ソビエト連邦消滅 市場経済導入推進	経済開放体制に入り、さまざまな規制が緩和され、外国資本の進出が相次ぐ。	
2001				WTOに加盟

<https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2009/2009honbun/html/i1230000.html>
データブックオブザワールド2019
地理B 東京書籍

ホワイトボード



問5 ユミさんとタロウさんは、インドの経済成長を支える産業構造について調べ、図7～9を見つけた。図7はインドのIT産業の売上高と対GDP比の推移、図8はインドの自動車生産・販売・輸出の推移、図9はインドにおける収穫量の増加を、それぞれ示したものである。図7～9から読み取れることをユミさんとタロウさんが話した会話文中の空欄（え）～（き）に当てはまる語句や文の正しい組み合わせを、下の①～④より選べ。

ユミ 「インドの産業が成長しているのは理解できたけど、どんな産業が主に成長しているのかな」

タロウ 「外国資本が次々とインド国内に参入してきて、1980年代後半から国内生産量が増加しているのは、（ え ）だろうね。国内需要も所得の上昇、夫婦共働き世帯の増加、ローンの普及と金利の引き下げなどで拍車がかかったみたいだ。このように供給面と需要面の拡大要因が相互に関連して、拡大の連鎖が形成されていると聞いたよ。」

ユミ 「1990年代後半から典型的な輸出指向型になっているのは（ お ）だね。2005～2006年では、インド最大の輸出品目になっているらしいよ。輸出の7割近くはアメリカ向けで、アメリカとインドの間の緊密な人的ネットワークが形成されていることが、この産業を開花させる下地となったみたいだ。そしてインドのこの産業の最大の強みは人材大国ということ。インドの技術者は英語に堪能であることはもとより、技術に対する集中力や技術マインドが高いと書かれた本を読んだことがあるよ。」

タロウ 「農業はどうなっているんだろうね。」

ユミ 「穀物生産量は特に1960年代に始まった緑の革命以後、飛躍的に増加したわね。この結果、インドは1970年代に（ か ）の自給を達成するとともに、余剰分については輸出を行うことが可能になったわ。」

タロウ 「資料を見ると、コメの単位収量が小麦に比べて伸びていないのがわかるね。これはなぜかな。」

ユミ 「これは緑の革命の普及度によって、コメは小麦に比べて単収の高い州と低い州で大きな差が生じているからみたいよ。この差は（ き ）などの複数の要因が絡み合って、単収の差に影響を与えているものとみられているわ。」

http://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/k_syokuryo/h21/pdf/h21_asia3.pdf

F IT産業

G 自動車産業

H コメ

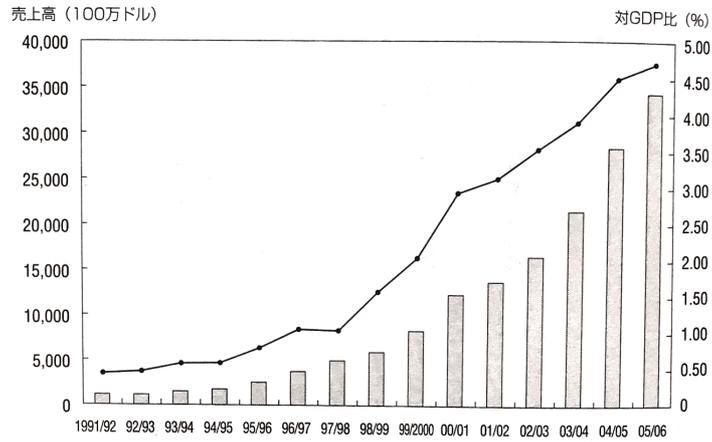
I 小麦

J 灌漑の普及率、肥料の投入量、高収量品種の導入・作付の増加

K 大規模農家がますます農地を集中してきたこと、
農産物市場での価格競争が生じたこと

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ① え - F | ② え - G | ③ え - F | ④ え - G |
| お - G | お - F | お - G | お - F |
| か - H | か - I | か - I | か - H |
| き - K | き - J | き - K | き - J |

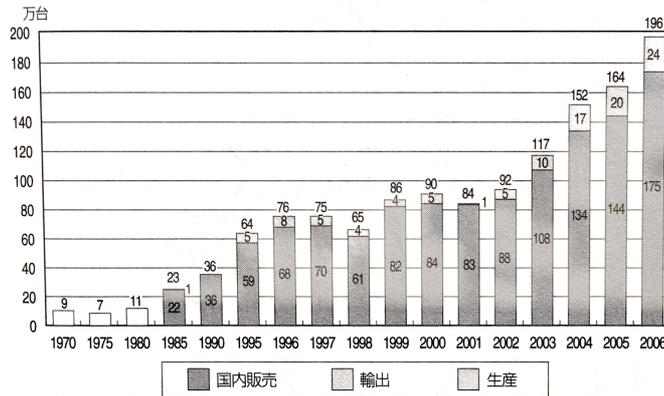
インドのIT産業



出典：NASSCOM (National Association of Software and Service Companies) より作成。

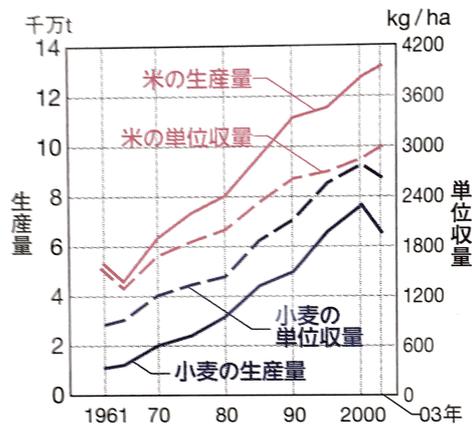
図7

インドの自動車生産・販売・輸出の推移



出典：SIAM (インド自動車工業会)。

図8



↑5 インドにおける収穫量の増加 (FAO 生産統計年鑑 2003 年ほか) 緑の

図9

問6 アイコさんたちは今回の学習を通して、国際社会において、人類全体で取り組まなければならない経済成長に伴う課題と持続可能な開発に向けた取り組みについて理解することが求められていると感じた。そこでまずSDG'sについて資料をもとに理解を深めた。(表2)そしてインドの課題に対する対策について、アイコさんたちは自分たちで集めた資料をもとに、SDG'sと関連づけてまとめたポスターを作った。ポスターに示された、資料とSDG'sの関連として、く～たより最も関連性の低いものを2つ選んだものを①～④よりひとつ選べ。

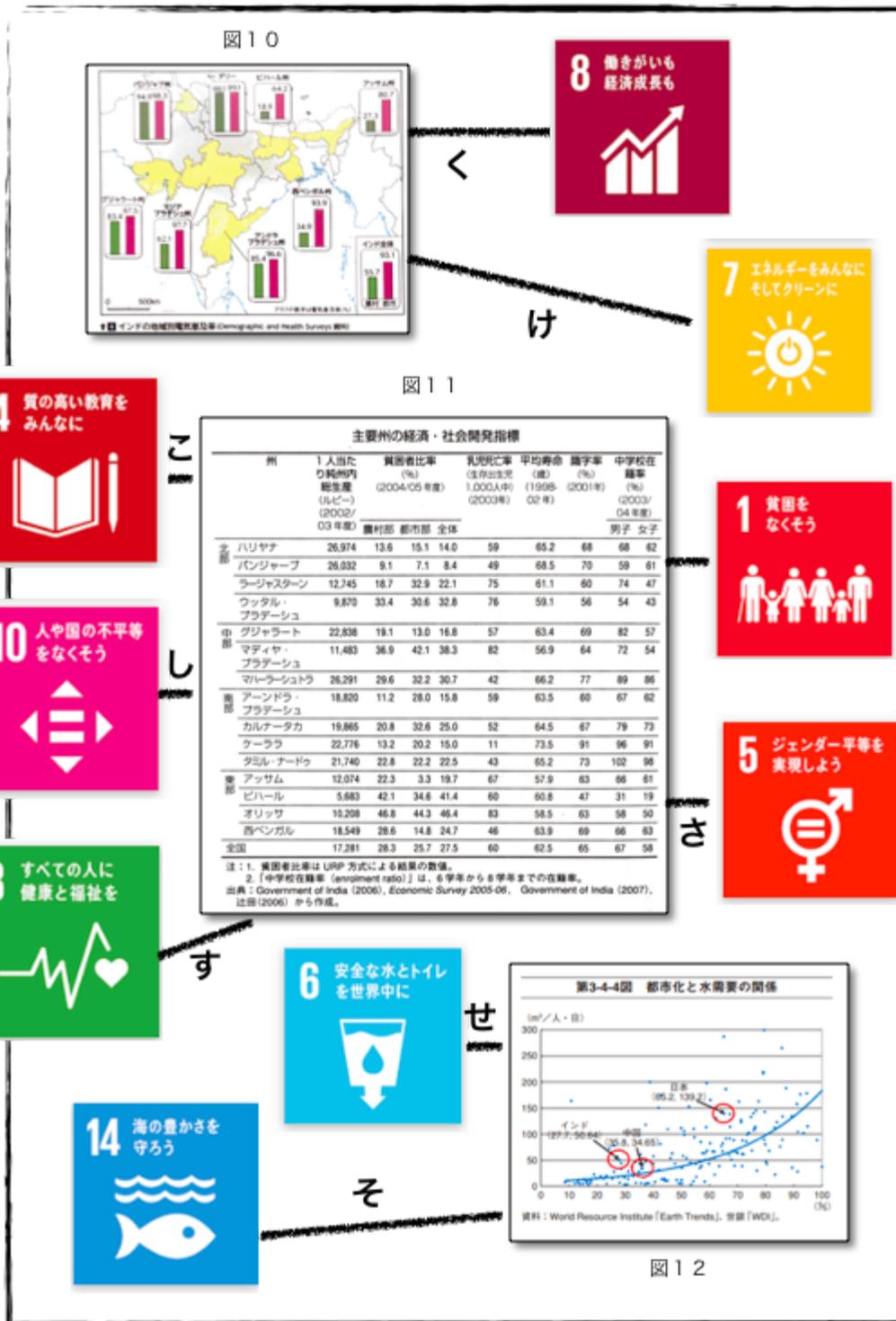
※ ポスターに示された図10～12は、次ページに拡大して掲載している。

表2

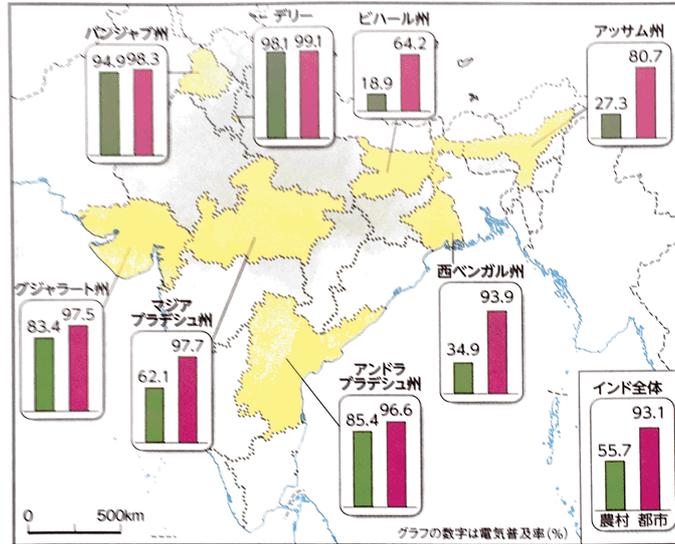
SDG's	具体的な事例
1 貧困をなくそう	こどもの貧困 生活保護 ワーキングプア
3 すべての人に健康と福祉を	孤独死 生活習慣病 社会保障費 医師・看護師不足 超高齢社会 自殺
4 質の高い教育をみんなに	教育格差 不登校・いじめ 発達障害
5 ジェンダー平等を実現しよう	女性リーダー 仕事と子育ての両立 男性の家事・育児
6 安全な水とトイレを世界中に	水不足 インフラ不足
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	再生可能エネルギー
8 働きがいも経済成長も	ワークライフバランス 非正規雇用 後継者不足
10 人や国の不平等をなくそう	地域経済格差 外国人労働者 LGBT 障害者
14 海の豊かさを守ろう	水産資源の枯渇

持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン 笥 裕介 英治出版

① く・そ ② け・し ③ こ・せ ④ さ・す



https://www.meti.go.jp/report/tshaku2008/2008honbun_p/2008_15.pdf



↑ 41 インドの地域別電気普及率 (Demographic and Health Surveys 資料)
POINT 都市と農村で普及率に大きな差がみられる地域を確認しよう。

図 1 0

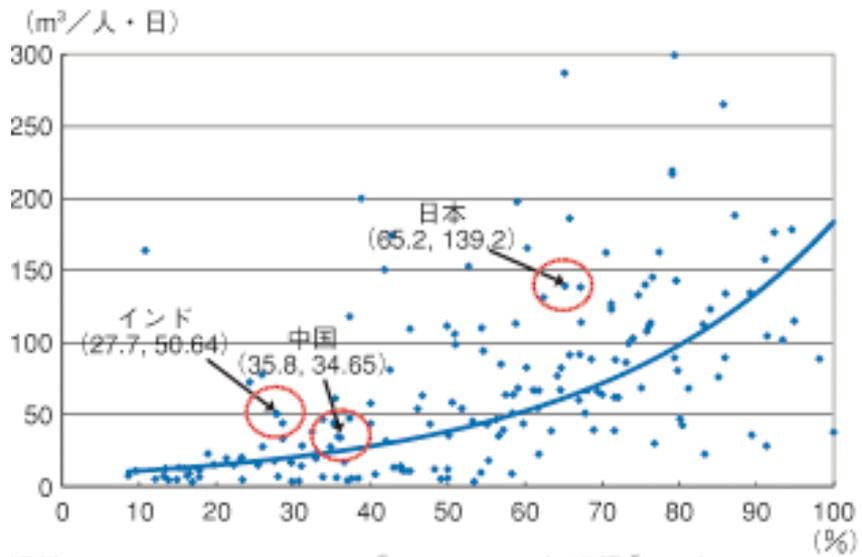
主要州の経済・社会開発指標

州	1人当たり純州内総生産 (ルピー) (2002/03年度)	貧困者比率 (%) (2004/05年度)			乳児死亡率 (生存出生児 1,000人中) (2003年)	平均寿命 (歳) (1998-02年)	識字率 (%) (2001年)	中学校在籍率 (%) (2003/04年度)		
		農村部	都市部	全体				男子	女子	
北部	ハリヤナ	26,974	13.6	15.1	14.0	59	65.2	68	68	62
	パンジャブ	26,032	9.1	7.1	8.4	49	68.5	70	59	61
	ラージャスターン	12,745	18.7	32.9	22.1	75	61.1	60	74	47
	ウッタル・プラデーシュ	9,870	33.4	30.6	32.8	76	59.1	56	54	43
中部	グジャラート	22,838	19.1	13.0	16.8	57	63.4	69	82	57
	マディヤ・プラデーシュ	11,483	36.9	42.1	38.3	82	56.9	64	72	54
	マハーラーシュトラ	26,291	29.6	32.2	30.7	42	66.2	77	89	86
南部	アーンドラ・プラデーシュ	18,820	11.2	28.0	15.8	59	63.5	60	67	62
	カルナータカ	19,865	20.8	32.6	25.0	52	64.5	67	79	73
	ケーララ	22,776	13.2	20.2	15.0	11	73.5	91	96	91
	タミル・ナードゥ	21,740	22.8	22.2	22.5	43	65.2	73	102	98
東部	アッサム	12,074	22.3	3.3	19.7	67	57.9	63	66	61
	ビハール	5,683	42.1	34.6	41.4	60	60.8	47	31	19
	オリッサ	10,208	46.8	44.3	46.4	83	58.5	63	58	50
西ベンガル	18,549	28.6	14.8	24.7	46	63.9	69	66	63	
全国	17,281	28.3	25.7	27.5	60	62.5	65	67	58	

注：1. 貧困者比率は URP 方式による結果の数値。
 2. 「中学校在籍率 (enrolment ratio)」は、6 学年から 8 学年までの在籍率。
 出典：Government of India (2006), *Economic Survey 2005-06*, Government of India (2007), 辻田(2006) から作成。

図 1 1

3-4-4図 都市化と水需要の関係



資料：World Resource Institute「Earth Trends」、世銀「WDI」。

図12

<https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2008/2008honbun/html/i3410000.html>

地理探究のねらい

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す

「地理的な見方」の基本

どこに、とめのようなものか、とめのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりてとらえ、地理的事象として見いたすこと。また、そうした地理的事象にはとめのような空間的な規則性や傾向性かみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

「地理的な考え方」の基本

そうした地理的事象かなせそこでそのようにみられるのか、また、なせそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

「地理探究」の学習を通じて育成される資質・能力のうち「知識・技能」にかかわるねらい

地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする

「地理探究」の学習を通じて育成される資質・能力のうち、「思考力・判断力・表現力」にかかわるねらい

地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う

「地理探究」の学習を通じて育成される資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」にかかわるねらい

地理に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める

解答

問 1	③	問 2	②	問 3	③
問 4	④	問 5	④	問 6	①

	高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要
		知識・技能	思考・判断・表現	
問 1	B 現代世界の地誌的考察 (1) 現代世界の地域区分 (2) 現代世界の諸地域	地図から特徴を読み取る地理的技能 資料から内容を理解する地理的読解く技能 世界の経済成長率についての理解 世界の人口増加についての理解 【知識】 先進国→人口停滞・GDP停滞 発展途上国 → 人口増加・GDP増加	事象についての位置や分布から、構造や変容などに着目して、地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。	人口ボーナス、人口オーナスについて、人口転換の知識を活用して理解する。中国とインドの人口構成に関する知識、世界全体の人口増加の地域別特徴、世界全体の経済成長の傾向などを総合的に思考して、判断する。 (Connections)
問 2		インドの経済成長率の理解 資料から、インドの人口構成の特徴を読み解く技能 【知識】 インド→多産少子移行期	事象について、構造や変容などに着目して、地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。	インドの中間層・生産年齢人口が多いという人口構成の特徴を、複数の資料を活用して多面的・多角的に考察して、判断する。 (Connections)
問 3		インドの気候分布についての理解 農業の地域的分布の理解 雨温図を読み解く技能	地理的事象について、人間や社会と自然環境と相互依存関係などの関わりをとらえて、考察することができる。	インドの気候の地域的差異と農業形態の違いを関連づけて、考察する。(Ideas)
問 4		インドの経済政策の推移の理解 資料を読み解く技能	事象の構造や変容などに着目して、時代の趨勢や大きな出来事を踏まえながら、国際的な地域の結びつきに留意して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	BRICsの経済政策の推移を比較考察しながら、共通点や相違点を考察し、適切な表現を判断する。(Ideas)
問 5		インドの産業についての理解 資料を読み解く技能	事象の構造や変容などに着目して、国際的な結びつきや自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえて、考察することができる。	インドの自動車産業とIT産業の構造的相違点や緑の革命について多角的・多面的に考察して判断する。 (Connections)
問 6		経済発展に伴う地球的課題についての理解 資料をよみとく技能	地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現できる。	インドの経済発展に伴う地球的課題について理解し、その要因を多面的・多角的に考察し、適切な表現を判断する。

